



未来研 並木 一実 議員

一般行政について

問 ここ数カ月の間で、日本列島

には、西日本の集中豪雨、台風、北海道の地震等、甚大な被害をもたらす自然災害が発生する中、4月に新市長になり、早6ヶ月になります。どのような気持ちでこの6ヶ月を過ごしましたか。

答 市長 4月に市長に就任し、目まぐるしく6ヶ月が経とうとしています。もう、そんなに経つのかと、思っています。

市においても、自然災害が発生した場合の準備をしつかりしなければならぬと考え、来年に向けて、市全体で防災訓練を実施したいと考えています。

問 副市長は、基幹産業は農業だと言いましたが、その言葉に感謝しつつ、山武市にいられて、何に一番力を入れて取り組みたいですか。

答 副市長 広い農地が沢山ある

ので、基幹産業として継続していくことは大事だと思っており、生産者の方々の意見を聞きながら、可能になるような事を考えていければと思っています。



土木行政について

問 県道成田・成東線、県道沿いの路肩未舗装部分の対応についてお聞きします。

答 都市建設部長 路肩未舗装部分の陥没、舗装の経年劣化による表層の剥離など、道路の修繕依頼が多数あります。

現在、県道成田・成東線については、安全対策事業の要望を継続的に行っています。また、早船・下大蔵地先付近については、一部工事が進められている状況で、今後も道路修繕が必要な箇所については、随時、県に報告するなどして、道路状況の改善を要望していきます。

成田国際空港の更なる機能強化について

問 成田国際空港の、平成29年度及び平成28年度の発着回数を伺います。

答 総務部長 平成29年度の発着回数は、25万2447回、平成28年度は、24万5705回です。

問 A滑走路、B滑走路ともに空港南側の、離発着状況について伺います。

答 総務部長 平成29年度のA滑走路、空港南側の離着陸は、7万2128回、B滑走路は5万4593回です。

問 離発着の回数が増加することで、航空機の墜落事故や航空機からの落下物事故が心配されますが、対策について伺います。

答 総務部長 航空機事故が発生した場合は、原則地域防災計画により対処しますが、成田国際空港消防相互応援協定により、他市町、NAA、航空会社に必要な応援を依頼します。また、本年7月には、県及び空港周辺関係機関により、成田国際空港航空災害対策協議会が設立されています。落下物対策は、NAAから、航空会社に対し、定期的に落下物対策の注意喚起等を行っていると考えています。

未来研 小川 良一 議員

問 市航空機事故被害見舞金支給規則の内容について伺います。

答 総務部長 航空機の墜落事故または航空機からの落下物により、市民や市内の住宅が被害を受けた際に見舞金を支給するものです。

問 NAAによる航空機事故が発生した際の補償について伺います。

答 総務部長 航空機事故の補償については、原因者である航空会社が行います。

問 成田空港周辺の地域づくりに関する基本プラン策定のスケジュール及び具体的な地域振興事業の計画を伺います。

答 総務部長 平成31年度中の策定に向け、騒音対策事業の拡充、観光振興の促進、地域医療の充実などについて協議をしています。

問 交付金以外に、企業誘致や空港関連施設の誘致、主要な国・県道路の整備等に県の積極的な協力が必要と考えますが、どう考えていますか。

答 市長 県への事業要望・協力要請等の働きかけを行っていきます。